

令和7年度横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会 会議録	
日 時	令和7年6月13日（金）15時30分から17時00分まで
開 催 場 所	市庁舎13階共用会議室、Web会議
出席者	飯塚 美穂子 委員、清水 純也 委員、西 智子 委員、野津 直樹 委員、日高 伸一 委員、廣井 雄一 委員、松田 妙子 委員
欠席者	片川 智子 委員、佐藤 康富 委員
事務局	こども青少年局保育・教育部長、保育・教育支援課長 保育・教育運営課長、保育・教育運営課担当課長 地域子育て支援課長、保育・教育運営課担当係長 地域子育て支援課担当係長、保育・教育支援課事業調整係長 保育・教育支援課担当係員
開 催 形 態	公開（傍聴者0人）
議 題	1 委員長の選出 2 各分科会の令和6年度実施報告及び令和7年度実施概要について
決 定 事 項	1 委員長に西委員を選出、職務代理者に廣井委員を指名 2 各分科会の所属委員を決定
	発言者 内容
議 事	事務局 【委員長及び職務代理者の選出について】 ・委員からの推薦により、西委員を委員長に選出 <了承> ・西委員長から、廣井委員を委員長職務代理者に指名 <了承>
	事務局 【横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会の概要について】 委員会の担任事務、分科会を含めた組織等について資料に基づき説明
	事務局 【分科会の今年度の開催予定状況の説明・各分科会委員について】 資料に基づき説明
	西委員長 事務局から、本委員会の概要、分科会の今年度の開催予定状況の説明、分科会の委員について提案があったがいかがか。
	各委員 <了承>
	【各分科会の令和6年度実施報告及び令和7年度実施概要について】 <u>1 横浜市各区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会</u>
	事務局 資料に基づき報告

	飯塚委員	担当の磯子区で二回の選定委員会を開催。第一回目は、施設の見学を通して実際の様子などを視察したことで、地域の方々に必要な場所になっていることを確認することができた。第二回目は委員からの質疑応答が多かった印象。選定を通しての感想としては、地域の関係者に対して、拠点そのものの存在意義や役割についてより周知していく必要があると感じた。
	廣井委員	私は昨年度選定自体はなかったが、本日は運営を振り返る良い機会にしたいと思っている。
	西委員	担当の栄区は5年前に統一しての担当だった。地域子育て支援拠点事業における5年間の進捗具合を把握することができ、事業が地域に定着してきたことがわかつた。ただ、就学前の親子に対しての印象が強く、多世代に対してはあまり認識されていないのが現状。小学生・中高生の居場所が撤退したため、多世代が関われる場所を今後整備していくことが課題。
	事務局	<p>2 横浜市親と子のつどいの広場運営団体選定委員会</p> <p>資料に基づき報告</p>
	飯塚委員	応募法人数が少なめであったが、決定先であるNPO法人さくらザウルスは、実績のある団体であるため、その実績やノウハウを生かしながら事業を進めていくようお願いした。また、NPO法人としてとひだまりに関しても、今まで地域の中で活動を自主的に進めてきたという理由で選定した。両法人とも人材確保が課題であり、継続して地域の中で活動を続けてもらうようお願いした。
	松田委員	各区からの推薦がついているので現地視察ができなくても審査がしやすい印象だった。
	事務局	<p>3 横浜市乳幼児一時預かり事業事業者選定委員会</p> <p>資料に基づき報告</p>
	清水委員	3 法人とも確りとプレゼンテーションされていたため安心して任せられると感じた。自分の幼稚園がある泉区の法人に対しても、選定者という立場で公平に判断した。
	日高委員	事業者の選定では、特に安全性を考慮して選定していくことが重要であり、その点について強い責任感を持っている。市からの情報により精査しているが、さらに情報があるとより良い選定ができると感じている。また、現地視察も行うなど改善すべき点があると思っている。

		<p><u>4 横浜市立保育所の民間移管にかかる法人選考委員会</u></p> <p>資料に基づき報告</p> <p>(佐藤委員欠席のため報告なし)</p>
		<p><u>5 横浜市病児保育事業実施医療機関選定委員会</u></p> <p>資料に基づき報告</p> <p>(片川委員欠席のため報告なし)</p>
		<p>【質疑応答】</p>
清水委員		<p>自分の園が幼保連携型認定こども園に移行した際に、多くの書類作成等が必要だった。候補法人はこのような市の審査で通っているので、かなり信用できる法人であることは理解しているが、実際自分のように事業を担っている委員の目を通して選定していくことは、大切なことであると感じている。</p>
事務局		<p>皆様ご意見やご感想ありがとうございます。(横浜市乳幼児一時預かり事業事業者選定委員会における日高委員のご発言に対し) 現地視察や資料の事前説明の内容等について検討していきたい。今年度の開催に向けて調整しながら相談していきたい。</p>
日高委員		<p>情報はたくさん欲しいが、市の負担がかかるとはしたくないと思っている。可能であればプレゼンテーションの前の事前説明で、法人情報等をもう少し伺うなど、限られた時間の中でより良い評価をしていきたい。</p>
事務局		<p>今の日高委員のご意見についても、遡上に載せ、検討していきたい。選定委員会とは別日に、委員に現地へ行っていただくのは難しい面もある。乳幼児一時預かり、事業者選定委員会は職員等による現地視察は済ませた形で開催するので、そのあたりの情報については、委員会当日、事前に詳しく共有した上で選定していただきたい。</p>
廣井委員		<p>認識の確認ですが、一昨年は施設の視察はできなかったが、昨年度はできたということか。</p>
西委員		<p>地域子育て支援拠点については、一昨年までは活発に活動している他区の地域子育て支援拠点を視察しており、選定の該当区には行かないという形をとっていた。ただ、昨年度は、応募があったのが、選定区の拠点をすでに運営している法人のみだったため、施設を視察する形となった。</p>

	<p>飯塚委員</p> <p>どの事業も、横浜市の方針や計画が土台になっており、それぞれの区のニーズの把握が大切。子どもが少なくなっているが子育てのニーズは増えている状況であり、市民のニーズを今後どうすくいあげていくかが課題。</p> <p>松田委員</p> <p>選定後、法人に対する区のフォロー・指導体制はどうなっているか。</p> <p>事務局</p> <p>地域子育て支援拠点は、各区が地域子育て支援拠点運営法人と毎月1回は顔を合わせて打ち合わせを行っている。親と子のつどいの広場も、全施設長を集め会議を開催し、グループワークを通じて悩み等を共有している。</p> <p>西委員</p> <p>区がフォロー・指導を行ってくれることはわかったが、そこで出た意見を委員と共有できる場があまりないと感じている。</p> <p>野津委員</p> <p>日高委員と同じく選定するにあたって責任を感じている。選定するからには、忙しい中でも現地視察に行くべきだと思う。また、選定後の法人のフォローにおいても、現地を視察しながら様子を見ていくべきだと感じる。視察しない理由がわからないし、委員の忙しさを理由に視察をしないのはどうかと思う。</p> <p>西委員</p> <p>視察に関しては事務局の業務も増えてしまう部分もあるが、検討すべき課題の一つ。拠点事業に関しては、委員が他の区と審査する区の両方見ることで、それぞれの状況が把握できるようになり視野が広がると感じている。</p> <p>審査をするにあたって地域との連携が何より必要であり、行政が地域との繋がりの核の部分を担っている。市内の小中学校などの教育機関も巻き込み、市が中心となって保育・教育・次世代育成を推進していってほしいと感じている。</p>
資料	<p>資料1：横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会 委員名簿</p> <p>資料2：横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会 事務局職員名簿</p> <p>資料3：横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会の概要について</p> <p>資料4：横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会分科会委員名簿</p> <p>資料5：令和6年度実施報告及び令和7年度実施概要について</p> <p>別紙1：横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会運営要綱</p> <p>別紙2：横浜市子育て支援事業運営事業者選定委員会 各分科会の運営要綱</p>
特記事項	なし